

リスク認知と信頼

中谷内一也

同志社大学 心理学部

専門家がリスク評価をわかり易く伝えても、一般の人へは必ずしもうまく伝わらない。なぜか？

1. 統計情報の判断・意思決定への影響力が小さい

二重過程理論による説明

2. 信頼の欠如

信頼規定因についての検討

3. 直感的リスク認知の特徴

e.g., 各種リスク認知モデルやヒューリスティクス

4. 立場による確率の意味の違い

頻度説確率と主観説確率

Introduction: Social Trust in Risk Management

Why the great interest in social trust now? Many have concluded that there is a problem in modern societies regarding the communication of risk. To date the outcomes of the various risk communication programmes implemented in Europe and the US have been less effective than hoped by their planners. The public often is hostile to the local siting of waste incinerators and nuclear waste dumps, a reaction that has not been influenced by the implementation of risk communication programmes (Adler and Pittle 1984; Cvetkovich et al 1986; Slovic and MacGregor 1994). In part such responses might be attributable to the practical problems associated with the lack of funding of risk communication programmes and, from this, failure to conduct proper evaluations (Kasperson and Palmlund 1987; Chess et al 1995a and b). Due account must also be taken of the inability of practitioners to understand that they have to work together with the public rather than simply 'educate' them (Fischhoff 1995; Leiss 1996). Researchers, frustrated by the lack of both practical and academic success of the various risk communication initiatives, have tried to identify underlying conceptual reasons why these programmes have failed. Among the factors currently receiving the greatest attention is trust.

There is a prevailing view, particularly among harried risk managers, that

Social Trust and the Management of Risk(1999)イントロより

では、何が信頼の高さを決めるのか？

Hovland & Weiss (1951)より

トピック：抗ヒスタミン剤の処方箋なし購入

高信憑性：ニューイングランド医学雑誌

低信憑性：大衆雑誌A

トピック：原子力潜水艦の実用

高信憑性：オッペンハイマー

低信憑性：プラウダ

....

これまでの研究の知見を乱暴にまとめる
信頼を規定する2成分は；

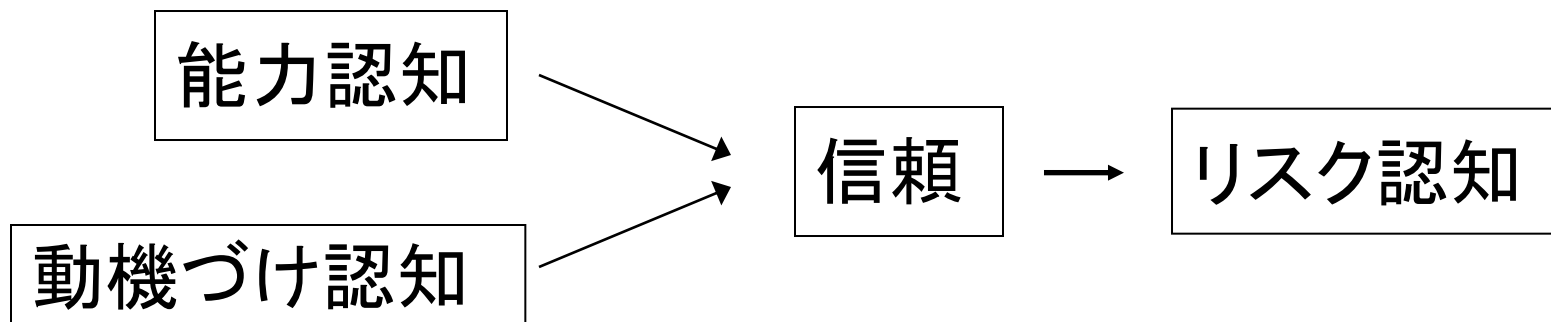
- ・能力(competence)認知

能力、経験、資格、...

- ・動機づけ(motivation)認知

公正さ、誠実さ、努力、...

確かに多くの実証的知見は；



という標準的モデルを支持している。

しかし、それで十分か？

主要価値類似性(SVS)モデル (Earle & Cvetkovich, 1995)

主要価値(Salient Value)とは、ある問題を受けとめる際の枠組み。問題をどのようなものとして受けとめ、その中でどういう対処法や結果を求め、どのような選択をすべきかについての理解を含む。問題に依存する。

相手が主要な価値を自分と共有していると感じると、その相手を信頼する。

価値共有認知

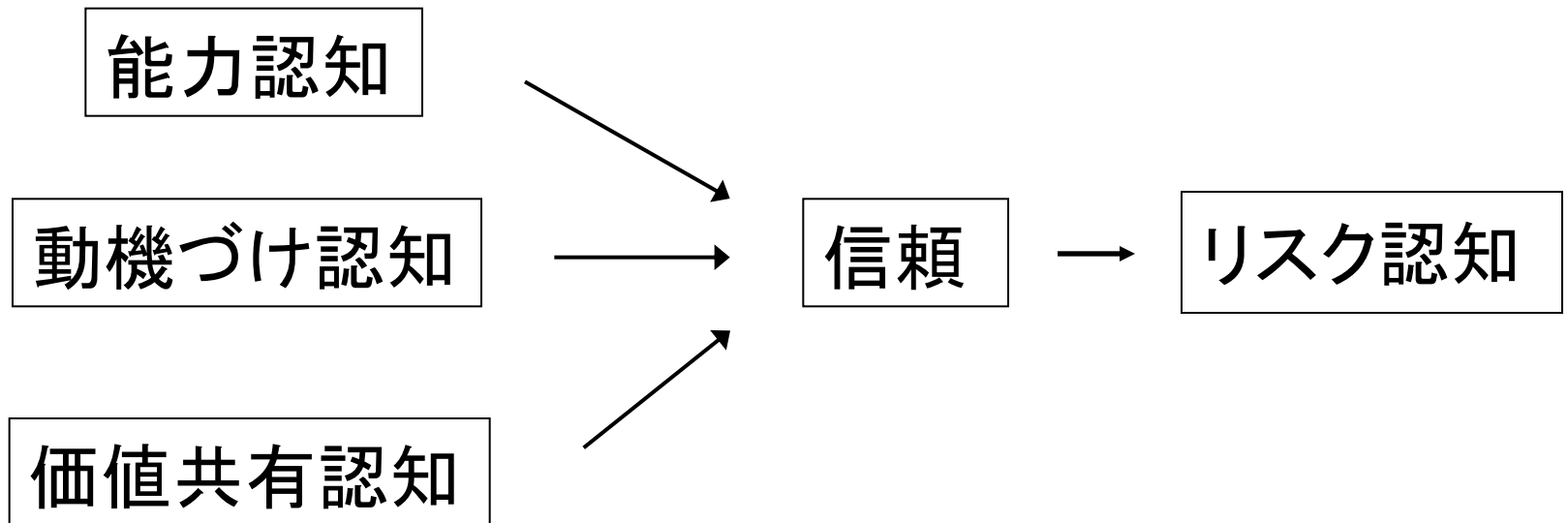


信頼



リスク認知

では、どれが一番強い信頼規定因か



東日本大震災のリスクに深く関連した組織への信頼

中谷内・工藤・尾崎(心理学研究, 印刷中)より

調査時期: 2011年4月, 2012年4月

調査参加者: 成人男女1,030人

調査方法: 調査会社の登録パネルを用いたWeb調査

評価対象: 原子力安全・保安院、食品安全委員会

気象庁気象研、東大地震研、東京電力、JR東日本
(比較対象として) 関西電力、JR西日本
の合計8組織

調査参加者は組織ごとに各項目を5段階尺度で評定

・能力

専門的技術が高い、有能である、豊かな専門知識をもつ

・動機づけ

一生懸命である、よく頑張る、熱心である

・価値共有

同じ目線に立っている、気持ちを共有している、
何を重視するかが一致している

・信頼

信頼できる、頼りになる、任せておいて安心である

・リスク管理

社会の安全性を高めている、人々への危険を取り除いている、
うまく災害を防止している

結 果

	2011年調査					2012年調査				
	価値共有 →信頼	能力 →信頼	動機づけ →信頼	信頼 →リスク削減	信頼評定(<i>SD</i>)	価値共有 →信頼	能力 →信頼	動機づけ →信頼	信頼 →リスク削減	信頼評定(<i>SD</i>)
東京電力	.67***	.15***	.15***	.83***	1.59 (.71)	.61***	.10***	.28***	.86***	1.51 (.70)
安全保安院	.54***	.17***	.22***	.81***	1.64 (.70)	.58***	.17***	.24***	.83***	1.59 (.70)
JR西日本	.32***	.23***	.41***	.79***	2.23 (.75)	.30***	.39***	.25***	.84***	2.25 (.77)
食品安全委	.40***	.34***	.20***	.79***	2.25 (.75)	.38***	.37***	.22***	.85***	2.21 (.73)
地震研究所	.36***	.38***	.26***	.80***	2.54 (.79)	.29***	.37***	.32***	.79***	2.59 (.75)
関西電力	.28***	.34***	.38***	.82***	2.61 (.78)	.45***	.18***	.37***	.86***	2.12 (.79)
JR東日本	.21***	.33***	.44***	.84***	2.75 (.80)	.26***	.37***	.34***	.82***	2.72 (.79)
気象研究所	.25***	.48***	.24***	.75***	2.91 (.76)	.20***	.52***	.26***	.79***	2.96 (.75)

 $p < .001$

信頼評価の低い組織からソート

信頼評定のとり得る平均値は1から5

主な結果

信頼が低い組織ほど、価値を共有しているという認識次第で信頼レベルが決まる

リスク管理への評価はかなり信頼レベルで決まる

1年で信頼レベルも規定因の重みづけもほとんど変化はなかった

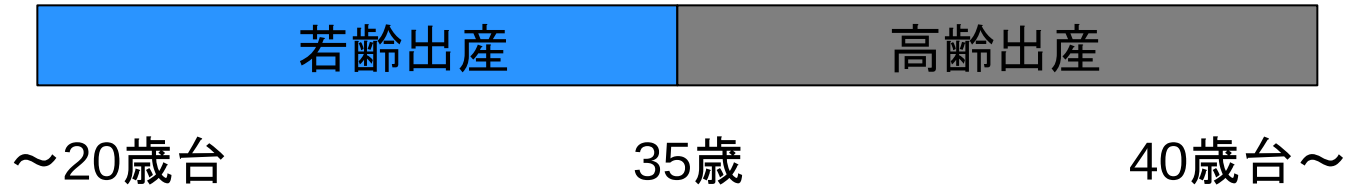
インプリケーション

リスク管理者と国民が価値を共有していることを確認しあう機会が必要

信頼の低い時に専門性や技術力をアピールしても信頼回復にはあまり役に立たない

立場による確率の意味の違い

リスクが定量的概念なのに、人々の思考法が安全/危険の二分法なのでリスクコミュニケーションがうまく進まない!?



- ・若齢／高齢の二分法は無理がある
- ・同じ年齢でも個人差がある
が、妊婦全体で見ると年齢は安全さに関連
- ・基準は目安、決めごとに過ぎない
- ・年齢は“指標”、安全さそのものではない

素朴に考えても、定量的思考ができないわけがない
ではなぜ、安全／危険の二分法が前面に出てくるのか？

→リスク管理者には不適切に見えても、個人にとっては
“論理的に”まっとう

なぜなら；

量-反応関係を基盤とするリスク推定は頻度説確率

つまり、繰り返し観測される事象(=集団)が対象

量-反応関係の中で個人はむしろ二分法をせまられる

もちろん、頻度説によるリスク評価は個人にとっても有益

しかし、集団を対象とする視点は個人のそれとは別物

以上を踏まえての私見

「安全なのか、危険なのか」と2分法で迫られたら？

「そこでいう安全が“絶対安全”を指すのなら、安全ではない」
でも、

「そこでいう危険が“絶対危険”を指すのなら、危険ではない」

さらに、

「では、危険である“可能性”はあるのかないのか」と迫られたら？

「可能性はある」と答えるべき。

それを言わないと、リスク概念に基づく管理は不可能ではないか